

平素は愛知銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

我が国の経済情勢は、海外経済の減速や円高の進行などによる不安がくすぶり続けているものの、景気は緩やかな回復を続けております。一方、人口減少や高齢化社会の進行等の課題に対処を迫られるなかで、地方創生への取組など、地域活性化に向けた地域金融機関が果たすべき役割への期待は一段と強まりつつあります。

こうした経営環境の中で、平成28年4月にスタートさせた「第10次中期経営計画」では、当行が10年後に目指す姿として「地元調達・地元運用に徹し、地域社会の発展とお客さまの成長に貢献する愛知のリーディングバンク」を掲げ、10年後も地元中心の経営に特化している「当行の企業像」を明確にいたしました。

中期経営計画の3年間で目指す大きな目標は3つあります。1つ目は「収益力増強のための営業体制強化」です。具体的には、平成27年10月にスタートした「新営業体制」の下、昨年6月に実施した「本部組織のスリム化」により営業店人員を増強し、営業力の強化を図っていきます。2つ目は、「リスク・リターンのバランスを踏まえた堅実経営」です。当行が長年にわたり培ってまいりました堅実経営を遵守していくなかで、リスク・リターンとのバランスを踏まえて果敢にお客さまへの融資や支援に取り組んでいきます。3つ目は、「金融サービスを通じたメイン取引先の拡大」です。法人・個人ともにメイン取引先の増加を目指した活動を強化していきます。地域のシェアを高め、10年後の姿に掲げる「愛知のリーディングバンク」の礎を築いていきます。

以上の3つの目標を達成するために、「経営資源の選択と集中」、「挑戦、スピードアップ」、「地域社会への貢献」の3点を戦略構築の基本方針として掲げています。

1つ目の「経営資源の選択と集中」につきましては、「ヒト」、「モノ」、「カネ」という経営資源を選択し、個別戦略に集中させていきます。2つ目の「挑戦、スピードアップ」につきましては、あらゆる業務において迅速な対応が可能となるように、引き続き業務効率化などを積極的に進めていきます。

最後の「地域社会への貢献」につきましては、地方創生に向けた地域の成長企業支援、ソリューション営業による取引関係の強化、愛知銀行グループ全体の金融総

合サービスの強化などにより、地域社会の活性化に貢献していきます。

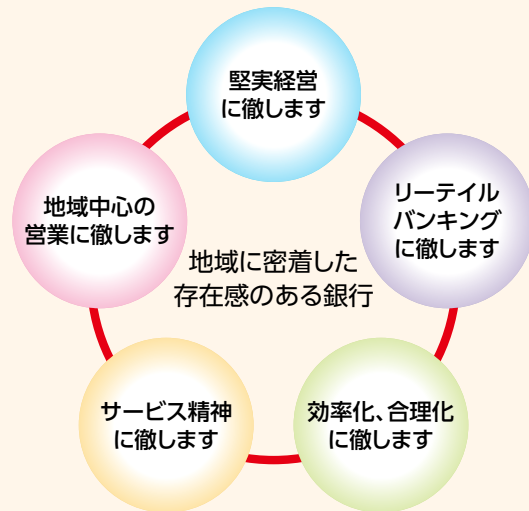
この基本方針の下で、収益力の強化、経営基盤整備のための個別戦略を展開してまいります。



取締役頭取 矢澤 勝幸

## 経営理念

- 1. 堅実経営に徹します。**  
堅実経営に徹し、業績の発展をとおして地域社会の繁栄に寄与します。
- 2. 地域中心の営業に徹します。**  
地域社会にしっかりと根をおろし、地域のニーズに速やかにお応えし、心のふれあいをとおしてその地域に最も役に立ち、信頼される銀行に徹します。
- 3. リーテイルバンキングに徹します。**  
当行は個人や中小企業のみなさまに、安定した資金を供給するとともに情報の提供や各種経営相談等を行い、みなさま方の良きパートナーとして、どこよりも頼りになる銀行に徹します。
- 4. サービス精神に徹します。**  
全行員がお客さま第一の精神をもって、お客さまのニーズに積極的にお応えするため、魅力ある商品・サービスの開発、充実をはかるなど総合金融サービスの提供に徹します。
- 5. 効率化・合理化に徹します。**  
健全経営のための合理化をさらにおすすすめ、組織の活性化に努めるとともに生産性の向上をはかり、経営体質の強化に徹します。



## 経営計画

### 第10次中期経営計画（平成28年4月1日～平成31年3月31日）

～地域に根ざし、地域社会の発展に貢献していきます～

10年後に  
目指す姿

地元調達・地元運用に徹し、  
地域社会の発展とお客さまの成長に貢献する愛知のリーディングバンク

大目的

収益力増強のための  
営業体制強化

リスク・リターンをバランスを  
踏まえた堅実経営

金融サービスを通じた  
メイン取引先の拡大

基本方針

経営資源の選択と集中

挑戦、スピードアップ

地域社会への貢献

#### 第10次中計基本戦略体系

トプライン強化

法人戦略

個人戦略

市場運用戦略

店舗戦略

経営基盤整備

組織・人材戦略

経営管理態勢

中期経営計画を確実に遂行するためのPDCA体制の確立

### 第10次中期経営計画で目指す経営指標（平成30年度目標）

◆コア業務純益	82億円	◆経常利益	75億円	◆当期純利益	50億円
---------	------	-------	------	--------	------